

JENESYS2015（招へいプログラム） （対象国：インドネシア,文化・技術）の記録

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、インドネシアより文化に関心を有する高校生・大学生ら 50 名が来日し、日本の政治、社会、歴史及び外交政策に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、1月20日から1月26日までの7泊8日の日程でプログラムを実施しました。

2. 参加国・人数

インドネシア 50名

3. 訪問地

東京都、山梨県

4. 日程

1月20日（水） 羽田国際空港より入国、来日時オリエンテーション

1. Aグループ(高校生)：【歴史的建造物視察】皇居

2. Bグループ(大学生)：【学校交流】拓殖大学

1月21日（木） 【日本理解講義、基調講演】、都内から山梨県へ移動
【地方自治体講義】山梨県

1月22日（金）

1. Aグループ(高校生)：

【地場産業視察・体験】いちご狩り、地場産業センター

【学校交流】山梨県立甲府昭和高等学校、ホームステイ対面式

2. Bグループ(大学生)：

【地場産業視察・体験】いちご狩り

【歴史・文化体験】真言宗智山派高橋山 放光寺視察、茶道体験

【学校交流】山梨大学、ホームステイ対面式

1月23日（土） ホームステイ

1月24日（日） ホームステイ、ホームステイ歓送会
ワークショップ（報告会準備）

1月25日（月） 山梨県から東京へ移動
【先端技術視察】日本科学未来館
【歴史的建造物視察】浅草寺

報告会（訪日成果・帰国後活動計画発表）

1月26日（火） 羽田国際空港より出国

5. プログラム記録写真



1/20 【歴史的建造物視察】皇居（東京都）



1/20 【学校交流】拓殖大学（東京都）



1/21 【地方自治体講義】山梨県（甲府市）



1/22～1/24 【ホームステイ】（甲府市）



1/25【最先端技術】日本科学未来館（東京都）



1/25 【報告会】（東京都）

4. 参加者の感想

◆インドネシア 高校生

・私とその他の友達は、日本語をあまり理解できませんでしたが、ホストファミリーの皆さんには、家族のように扱っていただきました。また、私たちの言葉を理解しようと努めてくれました。彼らは、大変温かいおもてなしをしてくださり、日本人の生活について教えてくれました。私たちがお祈りする習慣も尊重してくれましたし、宗教上食べてはいけない物を食べることもありませんでした。将棋やばば抜きなど日本独特の遊びも沢山できて、とても楽しかったです。

・このプログラムは、文化交流の側面が強かったと思います。私たちは地域の食べ物から、文化、宗教まで、お互いの国について話しました。そこで、インドネシアが日本から学ぶ点が多いことに気づきました。このプログラムを通して、私の日本に対する理解は色々な点で深まり、私にとって大変貴重な体験となりました。インドネシアに住む私の友人たちにもこのプログラムを通して得ることができた情報、知識、有益だったことを伝えることができればよいなと思います。

◆ インドネシア 大学生

・日本社会がどのように技術を生み出し、どのように技術を駆使しているのかが、私にとって一番印象に残ったことでした。私が専攻し、大学での専攻と同分野の日本における技術を見ることができました。大学で学んだことは別にしても、現在のインドネシアの技術は日本より非常に遅れていると感じました。これを契機に、今後私はインドネシアの為により良いシステムと技術を構築していくべく努めていきたいと思っています。



また、二つ目に印象的だったことは、日本社会がどのように歴史と文化を守っているかということでした。特に山梨県では、現在でも県民が県の歴史と文化を大事にし、また文化と技術の間のバランスも保っています。このバランスが日本人に関して、強く印象に残ったことでした。

・来日して最も記憶に残ったプログラムは「ホームステイ」でした。次に、山梨大学訪問で視察した日本の先端技術です。研究室の皆さんが、研究で技術を駆使するためには、多くの資金を要します。この費用を全て大学から出資するのではなく、政府や政府機関と協力し、助成金を受けることで賄っているということを伺いました。

また、日本人は、グローバル化の時代にあっても、伝統的な文化を保持し続けています。日本の歴史についても興味を引かれました。日本の文化の存続と発展の為に、良好な管理システムを構築し、そして日本人がいかに日本の哲学と欧米の文化のバランスを保ちながら、維持していくのかに興味を引かれました。

最も充実していた経験は、ホームステイで日本の家族と一緒に暮らすことができたことです。私にとってこの方法は、日本社会の特性やマナーと文化を知る為の最も効果的な方法だと思っています。日本滞在が長くなるほど、日本への愛も深くなりました。

5. 参加者の帰国後の発信内容

<p>Action Plan</p> <ul style="list-style-type: none">• Penyebarluasan melalui SNS.• Program OSIS sekolah (<i>big event</i>, laporan, presentasi, mading)• Penyebarluasan melalui media cetak. 	
<p>報告会での発表（高校生グループ）</p>	<p>報告会での発表（大学生グループ）</p>